

薬理パフォーマンス課題④

本時の学習目標

- 臨床現場で起こりうる事例をもとに、安全な与薬をするために必要な知識やスキルを理解する。

事例 1	新人看護師が先輩看護師と膝関節内注入の介助について、医師から「ゲンタシンを注入します」と言われた。医師はゲンタシン注 10mg を指示したつもりだったが、新人看護師は 60mg と 10mg の 2 種類があることを知らず、60mg を注射器に用意して医師に手渡した。先輩看護師が「それ 10mg？」とたずねたため、60mg と 10mg の 2 種類があることに気づいた。
------	---

事例 2	カテコラミンが投与されている患者のメインの輸液を交換する際、看護師は、輸液ポンプの操作に不慣れで慌てていたため、カテコラミンの三方活栓を OFF にしたことに気づきませんでした。30 分後、患者の血圧が 50mmHg に低下し、先輩看護師が、カテコラミンが投与されていないことを発見しました。
------	--

事例 3	看護師は、降圧剤が含まれた患者 A の内服薬を、誤って類似した氏名の患者 B に渡しました。患者 A から「食後薬が届いていない」とコールがあり誤りに気づきました。
------	--

学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準			学習の視点
			A	B	C	
事例をもとに、事故防止の取り組みについて考える。	安全な与薬をするために必要な知識やスキルを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容 提示資料 質問への受け答え RF PF 	ヒューマンエラーがきっかけとなって誤薬事故が起こることを理解し、エラー防止のための留意点やエラーを指摘するスキル、患者参加の必要性について具体的に示している。	薬剤投与までの一連のプロセスを理解し、安全に与薬するために必要な考え方を具体的に示している。	事故による患者への侵襲を学び、各事例に対し、誤薬を防ぐための事故防止対策を具体的に示している。	<ul style="list-style-type: none"> ヒューマンエラー 6 R 口頭指示 指差し呼称 Wチェック 2回チャレンジルール アドヒアランス